

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071601258		
法人名	学校法人 久留米ゼミナール		
事業所名	グループホーム 国分つつじ苑		
所在地	福岡県久留米市国分町403-3 (電話) 0942-22-2018		
自己評価作成日	平成 24 年 8 月 27 日	評価結果確定日	平成 24 年 11 月 9 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 24 年 9 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

建物は平屋造りですぐに外気浴でき、天候の良い時は外でおやつ会などを催す。苑内は季節感のある花や壁画で飾り、屋内外のレクの写真など掲示し、落ち着いて過ごせる環境作りに心がけている。また、職員全員が入所者一人ひとりの目線に立ち、個々の思い・希望、家族の思いに柔軟に対応出来るよう利用者本意の支援を行い、身だしなみに気を配り、その人らしさを大切にしている。バランスの良い献立と水分補給には特に気をつけている。月1回のランチ外食は入所者の好みで個別対応し、以前からのかかりつけ医や美容院へ送迎、馴染みの店へ買い物など付き添っている。日々の暮らしの中で入所者の生き生きとした表情が多くみられる。職員の年齢も20～70代と幅広く、職員同士の情報交換を密に行い、明るく働きやすい職場になっており、職員が定着している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

閑静な住宅地の一角にある事業所は、明るく清潔で随所に細やかな心遣いが行き届いている。玄関周りは可愛い草花が植えられ、近隣に溶け込んでいる。医療機関との連携・日常の健康管理・緊急時の対応など安心である。昼間の職員配置は4名体制で、看護師の職員による付き添い受診を実施している。利用者本意・個別の支援をしている。職員の年齢層も幅広く、職員はさりげない気配り・接し方の配慮など、人柄が穏やかで、笑顔で明るい。利用者との関係も和やかで家庭的である。管理者・職員はケアサービスの質の高いグループホームを目指している。それは利用者の笑顔や職員の定着のなか、そして事業所の姿としてあらわれている。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりをもつ理念を職員と作り上げており、朝礼時に唱和、運営の基本方針として理念を共有し日々取り組んでいる。	事業所の理念「私達は笑顔と優しさを大切に、利用者の皆様の生き方を尊重し、穏やかな生活が送れるように支援します」を掲げ、その理念を全職員で共有し引き継ぎの時に唱和を行い、意識づけの徹底をはかり、日々のケアの中で理念の実践に向けて取り組んでいる。契約書の表紙に明示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物時は近隣の皆さんとの挨拶を励行し、町内会各種行事に参加し交流を深めている。職場体験学習、年末防犯警備、町内清掃、運動会、老人会等機会ある毎に積極的に参加している。	自治会等に参加しており、空き缶拾いの地域活動や敬老会・祭・文化祭などの地域行事に参加している。近所から四季折々の採れたての野菜や果物の差し入れや、地域の方が回覧板で立ち寄られるなど、理念の「地域に貢献し愛されるホームを目指します」を表現し、地域との付き合いを大切にしている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験学習の受け入れや町内会行事に参加するなど認知症の人を理解してもらえるよう取り組んでいる。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員、包括支援センター、市職員、利用者・そのご家族に参加いただき開催。災害時の地域との連携や苑の活動など様々な内容について意見を頂き、サービス向上に反映している。	定期的に運営推進会議を開催している。近況や現在の取り組み状況、今後の活動計画を報告し、委員からの意見をもらっている。委員から地域活動や四季の行事などの案内があり、利用者と職員で参加する等、運営や介護の質の向上に活かすように取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	久留米市主催の研修会、運営推進会議での市職員の参加、2か月に1度の状況報告など常に連携を重視しながら協力関係を築いている。	申請書類を提出時などに担当職員を訪問し、その都度、相談等をしている。行政から事業所を地域の避難所としての取り組み依頼の相談があっている。共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者のプライバシー等尊厳を守り思いを尊重できる様日頃より全職員に周知し、身体拘束についても理解に努めている。グループの全体研修テーマに取り上げられ、受講している。玄関は午前7：30～午後7：00まで開放している。	身体拘束に関し学ぶ機会があり、伝達研修も行い、徹底理解を図っている。利用者の外出の傾向等は職員間で把握している。利用者がでかけられたら一緒について行き、見守り・付き添いを行って安全確保に努めている。身体拘束廃止のケアを行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についてのCD研修を実施。控え室にマニュアルを常時設置し、意識づけを行い、高齢者虐待がどのような行為なのかを理解し、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットなどを使い職員にも周知し、利用者等にも説明できるようにしている。	管理者・職員は制度について勉強会を行い理解している。制度に関して利用者・家族に利用開始時に説明している。利用者が必要と考えられる状態になられたら、関係者で話し合い支援できるようにしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約また解約時、その内容について説明し理解していただいている。 契約時、事前に契約書を渡し、質問等を受けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の訴えは全職員が傾聴し管理者へ報告。又、自由に電話、面会、外出でき意思表示を可能にしている。意見箱の設置、苦情窓口を本部に設け意見を言えるようにしている。運営推進会議でも家族の意見を表明して頂き、その意見を運営に反映するよう取り組んでいる。	利用者・家族は運営推進会議に参加し意見を述べる機会があり、玄関には意見箱を設けている。職員は家族が訪問された面会時に声をかけをし、意見などを伺うように努めている。夜間帯は電話の子機を携帯し、かかってきた電話に即対応するなど、もらった意見・要望等は話し合い運営に反映するよう取り組んでいる。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、法人幹部との会議及び苑長を交えたカンファレンスを行っている。その際に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	管理者は日頃から職員が何でも気軽に言える雰囲気づくりと意見を聞くように心がけている。居室の換気・窓の目隠しシール・置物の配置変え等利用者との関わりや同じ目線のなかでの職員の気づき・アイデア等を運営に取り入れ反映している。また職場環境づくりに努めて、職員の異動・離職を抑え利用者・家族との馴染みの関係が継続できるよう、配慮をしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年基本給、手当、時給等の査定を行い適正な賃金向上に努めている。労働時間やシフトの変更など柔軟な対応を行い負担にならないように配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用は介護への思いを大切にしており性別、年齢で差別はしていない。労働時間もほぼ規定内に収まるようにしている。ローテーションも本人の都合を聞き休日をあわせるなど配慮している。</p>	<p>職員の採用は基本的人権を尊重し公正な選考を行っている。20代～70代と職員の年齢層も幅広い。全ての職員が適材適所の職場で、能力を十分に発揮し、またやりがいや向上心を持って安心して働くことができる職場環境づくりを目指し取り組んでいる。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>回覧で様々な人権問題について情報を発信しているが、最近は発信出来ていない。</p>	<p>基本的人権が尊重される環境は構築されているが、平成22年以降その啓発活動への取り組みがなされていない</p>	<p>利用者に関わる関係者で共通の意識を持ち取り組むことが大切である。啓発活動の取り組みを行ってほしい。</p>
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内外の研修に加えグループ全体での研修を行っている。また自己評価を年1回行い力量の認識によるレベルアップに取り組んでいる。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>介護事業者協議会のグループホーム部会に加入し、交流や勉強会を行っている。また研修を通して、他施設で実習を行うなどサービスの向上に取り組んでいる。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>以前から関わりのある施設職員や家族から十分に情報収集を行い、更に体験入所や入所前の訪問・来苑して頂いてのお茶会など信頼関係を築けるようしている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>本人、家族とゆっくり話し状況を把握した上、また、センター方式シートを一部利用した情報収集を行い、その後必要な支援、サービスを利用できるよう努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入苑以前までに関わってきた医療機関、介護施設その他の関係諸機関からの情報提供並びに家族から聞き取りを行い適切な対応ができるよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いろいろな場面での喜怒哀楽を共にしながら、学び、支えあう関係を大切に、利用者個々の状態や得手・不得手に応じ、一緒に買い物、野菜の下ごしらえ、皿拭き、衣類たたみ、自室の整理整頓等利用者ができることを促し、支援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自立した生活を支援するものであることを家族にも説明し、共に支えて行く関係を築けるよう勤め、外出や誕生会などの行事等には積極的に家族への呼び掛けをしてお誘いしている。 また、身体的・精神的変化のある時は、ご家族と密に連絡を取り、状況によっては協力をお願いしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日課の仏様の世話や新聞の購読、入所前の病院・美容室が継続できるよう支援し、また、関係が途切れないよう電話を利用したり、行きつけの店へ買い物に行けるよう支援している。幼馴染や友人の面会あり。	利用者の馴染みの(理美容院・商店・四季折々の花見や行事等)場所に利用者と職員と一緒に出掛けたり、利用者の知人・友人が来られたり、また電話や手紙での連絡を取り持つ等、利用者とのつながりや今までの暮らしが継続できるように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが利用者の関係を見極め、一人一人が良い方向で関われるよう席を工夫している。毎日のレクリエーションや各種行事などでも孤立しないよう席や配車、役割など加味している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とする利用者の家族には、できる支援を行い、関係を大切にしたいと思っている。介護添書の作成や電話対応・面会など行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族や関係機関からの情報収集に努め本人の趣味、性格、身体機能を考慮し思いのままに生活してもらっている。また、日々の会話や様子を通じて本人の意向をくみとれるよう記録に残している。	職員は日々の関わりの中で利用者一人ひとりの思いや希望、意向などを伺ったり、アセスメントシートを活用して把握に努めている。利用者からの希望を大切にしており、お誕生日のお祝いは家族を招いて利用者一人ひとりの誕生会を催している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報収集や本人の言葉をもとに暮らし方を考えている。家具、日用品等については馴染みのものを使用していただくよう家族とも相談している。仏壇の持ち込みも可能。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の精神的、知的、身体能力、生活歴を出来るだけ把握し、有する能力を導き支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1日1回のミニカンファレンス、毎月のカンファレンスと2ヶ月に1度のアセスメントで利用者の状態変化や課題について考え、意見を出し合い、モニタリングを行う。家族や本人等の要望や意見を聞き、ケアプランに反映している。	毎月カンファレンスを実施しており、利用者の状態把握が行なえている。職員間での話しやすい環境を大切にし、職員の意見を取り入れた計画を作成している。半年に1度計画の見直しを行い、必要であれば、その都度、計画書の見直しを行なっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、結果等に関してケース記録に記入。毎日の申し送り、申し送り簿により情報を共有している。月に1回カンファレンスで検討し、介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて病院送迎、美容室送迎、訪問歯科、訪問理美容、訪問マッサージ、その他買い物支援等柔軟な支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、自治委員の支援を受け地域交流を行い、地域行事に参加している。美容室の方の送迎を利用することもある。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人・ご家族が選択し、入所以前の主治医の継続もできる。受診介助は苑が行う。協力医の定期往診、緊急時の対応が可能で看取り支援も対応する。地域の医療機関と連携し、適切な医療を受けられる様支援している。	受診の付き添いは事業所が対応している。かかりつけ医は、事業所から20分以内と近い距離にあり、家族・主治医と連絡を取りながらスムーズな対応ができています。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり24時間対応している。各種研修会等にも参加し、他の医療機関等の相談助言も得られる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院できるよう適切な医療支援を得ている。退院に向けての話し合い、情報交換に参加し、又、他の医療機関とも交流に努め備えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りについての説明、理解を书面にて得ている。尚、利用者及び家族の意向を十分受け入れ、スタッフ、主治医と情報を共有し終末期介護を行っている。施設内で可能な医療処置を確認し本人、家族の意思を尊重したチーム全体での支援を行っている。昨年度は1名。	利用者・家族の意向をうかがい、十分な説明を行なって同意のもとで実施している。かかりつけ医・職員全員で情報を共有しながら統一した対応が行なっている。平成24年に入って3名の利用者の終末期ケアの対応を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による普通救命講習や看護師による応急手当の講習を実施していたが最近は行われていない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の火災訓練、内一回は1人夜勤の夜間想定で行っている。同敷地内に学生寮があり、寮長を通じ緊急時には避難救助できるよう計画している。また、寮一階に空室を設け、常に緊急避難所となるようにしている。	年2回の消防署立会いのもと、避難訓練を行ない、地域住民の参加もある。建物の横の学生寮の寮母の参加もあり、避難所として寮の1室を準備している。備蓄も十分な準備が出来ている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に関するCD研修を行い、利用者の尊厳と人権を守ることを心がけて対応している。個人情報取り扱いに関する誓約書など個人情報の管理・漏洩防止に取り組んでいる。	利用者の面接時に、声かけの仕方・呼び方などを聞き取り、その人らしく生活できるよう配慮できている。また、内部研修を行なう事で、職員全員がプライバシーの保護に対する認識をたかめ対応できている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いをよく傾聴しスタッフの考えが中心にならないよう、「どちらがよいですか？」など利用者を選択してもらい、利用者本位の支援を大切にしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで一切制限することなく散歩、買い物、その他娯楽等自由に行えるよう支援している。また、各種行事は本人の体調や意思を十分に尊重し行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ等の整容は本人の意見を尊重し支援しているが、おしゃれは利用者自身の趣味や希望に沿って個別に支援している。スカートを好まれる方にはスカート、お化粧をして欲しいと希望があれば対応している。また、入所前の美容院に送迎している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は職員も一緒に食事し、個人の能力に応じ、後かたづけ、もやしの根とりやごぼうのささがきなどの野菜の下ごしらえ、季節の野菜（つくし・セリ・いもづる等）の下ごしらえや干し柿作りも行っている。	食事をつくる専門職員が配置され、毎日、利用者も一緒に調理しおいしい食事が提供されている。職員も一緒に食事を行ない、楽しい雰囲気、残量もほとんどなく食べている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝、昼、夕の食事量の確認、チェック、記録をする。体重測定、医師による定期的検査を行い、個々の状態、変化に応じ個々の好む食べ物・飲み物を提供し、食事や水分の摂取を支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立にて歯磨きができる利用者には、毎食後声かけ及び誘導を行い全介助入居者には歯磨き介助を行っている。口腔ケアの拒否がある時はうがい剤を使用し、清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にて利用者一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導・声かけを行っている。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを考慮し、さりげない声かけで前誘導を心がけ、トイレでの排泄に向けた支援を行っている。オムツやパット類の使用は時間帯や季節で検討し、夏場は布パンツを使用するなど、自立に向けた支援を心がけている。また、利用者・家族の意見・希望も十分に取入れた対応を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、毎朝のバナナミルクなどの水分補給など便秘予防に努めている。献立にはなるべく野菜を多く採れるように工夫している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日、朝から夕まで開放しなるべく希望の時間に自由に入浴できるように支援している。個浴を実施し、週3回の入浴やシャワー浴、化粧水や乳液で保湿ケアを行っている。	入浴は利用者と職員のふれあいの談笑や本心を伺える大切な時間であり、利用者の希望に応じて柔軟に対応している。掃除も行き届いており気持ち良く入浴できる環境が整備されている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息、就眠できるよう消灯時間や就床時間を設定していない。また、室温の調節をこまめに行い、安全で快適に安眠できる環境に配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝・昼・夕・眠前と薬箱を設定。チェックシートに服薬確認欄があり、服用漏れ・誤薬防止している。 各人の処方箋一覧表を作成し、常時、閲覧出来るようにしている。また状態の変化に応じ医師への相談、服薬の調整などに努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の皿拭きや野菜の下ごしらえ、洗濯物たたみなどそれぞれの能力や趣味を生かせるよう支援している。又、お菓子や果物等本人の嗜好品は希望時近くの店へ買い物に同伴したり、スタッフが買出しを行っている。また、移動パン屋（1/W）利用し、楽しみにされている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調、能力、歩行状態に応じランチ外出、花見、ぶどう狩りなど一緒に出かけるメンバーや行き先に配慮しながら、なるべく希望に添えるよう支援している。また、家族の協力を得て、自宅の様子を見に行かれたりする。	事業所周辺の公園・散歩道は利用者の毎日のほどよい散歩コースになっている。近所のコンビニへの買い物や四季折々の花見見物、外食、ドライブなど利用者の体調や希望に応じてでかけている。外出先はまず職員が下見をし、安全確認を心がけている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される利用者はお金を持ちし、買い物の時はスタッフは付き添うが支払いは本人が支払うよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望でいつでも電話がかけられるよう制限はしていない。電話がかけたいがかけ方が分からない等ある時は、スタッフが支援する。手紙は一緒にポストへ投函している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間としてはそれぞれが広く、ゆっくりできるスペースを確保している。廊下に行事の写真を掲示し、四季折々の花で彩り季節感を出し、ピアノを置き居間の雰囲気を作るなど工夫している。	掃除の行き届いた共有空間は、不快を招く色や音・光、室温などにも配慮されている。花が生けられ、家具も家庭的な雰囲気で居心地よく過ごせるようにしている。壁面には利用者と職員の共同作品の貼り絵や行事等の思い出の写真や作品が飾られ、季節感を醸しだしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを設置し思い思いに過ごせるようなスペースを確保している。利用者同士の過ごし方も個々の思いを大切に支援している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が長く使い慣れた日用雑貨を利用するように勧め、仏壇の持ち込み等、自宅の延長の雰囲気をかもしだし居心地に工夫している。本人の希望や身体状況に応じて畳やフローリング、布団、ベットを選べるようにしている。	本人が使い慣れた馴染みの家具・ベット等を持ち込んでいる。事前に職員がご自宅を訪問し、家具の配置をご自宅と同じように心がけ、本人が居心地よく過ごせるように配慮している。居室の手すりの高さ・長さは、本人の状況・動線にあわせ、関係者で話し合い個別に設置するなど、事故防止対策に努めている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベット、布団、ポータブルトイレ等各人の心身状態に応じた環境作りを行い快適で安全に暮らせるように工夫している。なお、廊下、居室、共有場所はバリアフリーを実施。混乱が招かないように居室、トイレ、玄関、風呂場等わかりやすいように壁に明記している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない